(同　)岡山醫科大學
(同　)千葉醫科大學
(同　)金澤醫科大學
(同　)長崎醫科大學
(公立)大阪醫科大學
(同　)京都醫科大學
(同　)愛知醫科大學
(同　)熊本醫科大學
(私立)慶應義塾大學醫學部
(同　)慈惠醫科大學

(b)　專門學校

官立及公立醫學專門學校ハ漸次廢止セラル、筈ナレハ之ヲ略ス。

文部大臣ノ指定セル私立醫學專門學校左ノ如シ。

(私立)東京醫學專門學校
(同　)日本醫學專門學校

(同　)慈惠會醫院醫學專門學校
(同　)東京女子醫學專門學校

(三)、醫師試驗

醫師試驗ハ每年二回國家之ヲ行ヒ試驗ヲ受クルニハ中學校若ハ修業年限四ヶ年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學校ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者タルヲ要シ試驗ヲ二部ニ分テルカ其ノ科目左ノ如シ。

第一部

解剖學(組織學ヲ含ム)
生理學
病理學(病理解剖學、法醫學ヲ含ム)
藥物學
衛生學、細菌學

第二部

外科學(耳鼻咽喉科學及皮膚病學、黴毒學ヲ含ム)
內科學(小兒科學精神病學ヲ含ム)

眼科學
産科學、婦人科學
臨床試驗

(四)、醫師ノ數及分布狀態

大正十二年(一九二三年)末ニ於ケル醫師ノ現在數ハ四萬三千二十八人ニシテ內人口一萬ニ對スル醫師數ハ七、三六ニ當リ都市ニ集中シ僻陬ノ地ハ稀薄ナリ即チ市部ニ於テハ人口一萬ニ對スル醫師數ハ一二、八一ナルニ郡部ニ於ケル同數ハ六、〇〇ニ當レリ而シテ人口十萬以上ノ都市ニ於ケル數ハ左ノ如シ。

大正十二年(一九二三年)末現在

市名	醫師數	人口	人口一萬ニ付醫師數
東京	三、三〇二	二、二六五、三〇〇	一四、五八
京都	九九七	六五七、八〇〇	一五、一六
大阪	一、四二九	一、三八四、七〇〇	一〇、三二
神戸	六二〇	六九四、九〇〇	八、九二
横濱	三六九	四四六、六〇〇	八、二六
長崎	二六三	一八五、〇〇〇	一四、二二
名古屋	七一一	六五五、二〇〇	一〇、八五
仙臺	三四三	一二八、四〇〇	二六、七一
金澤	三四三	一四五、二〇〇	二三、六二
廣島	二五四	一六、八、七〇〇	一五、〇六
吳	九二	一五〇、〇〇〇	六、〇七
八幡	八四	一五一、六〇〇	五、五四
鹿兒島	一四八	一一七、三〇〇	一二、六二
札幌	二一二	一一七、三〇〇	一八、〇七
小樽	一二七	一一三、九〇〇	一一、一五
函館	一五四	一六七、五〇〇	九、一九
岡山	三〇九	一一一、四〇〇	二七、七四
熊本	二〇五	一三二、二〇〇	一五、五一
新潟	二二七	一〇二、四〇〇	二二、一七
福岡	二三八	一三五、二〇〇	一七、六〇

(五)、醫師會

法律ニ依リ認メラレタル醫師會ハ (a)日本醫師會 (b)道府縣醫師會 (c)郡市區醫師會ニシテ醫事衛生上ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ施行セル事業中主ナルモノハ貧困者ノ救療、衛生思想ノ普及、傳染病豫防産婆看護婦ノ養成、地方病ノ調査等ナリ。

乙、齒科醫師

(一)、齒科醫師タル資格

齒科醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ內務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス但シ重罪ノ刑ニ處セラレタル者(國事犯ニシテ復權シタル者ヲ除ク)公權停止中ノ者、未成年者、禁治産者、準禁治産者、聾者、啞者及盲者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス又禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサコトアル可キモノトス尙ホ醫師ニシテ齒科專門ヲ標榜セントスル者ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノトス。

一、文部大臣ノ指定シタル齒科醫學專門學校ヲ卒業シタル者

二、齒科醫師試驗ニ合格シタル者

三、外國齒科醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル者ニシテ內務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者

(二)、文部大臣ノ指定シタル齒科醫學專門學校

東京齒科醫學專門學校
日本齒科醫學專門學校
大阪齒科醫學專門學校
日本大學專門部齒部

(三)、齒科醫師試驗

齒科醫師試驗ハ每年二回、文部大臣ノ告示セル地方ニ於テ之ヲ行ヒ試驗ヲ受クルニハ中學校若クハ修業年限四ヶ年以上ノ高等學女校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シテ修業年限三箇年以上ノ齒科醫學校ヲ卒業シタルモノナルコトヲ要シ試驗ヲ分チ學說試驗及實地試驗トセリ而シテ學說試驗ハ左ノ科目ニ就キテ行フモノニシテ之ニ合格スルニアラサレハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得ス。

學說試驗

解剖學(組織學ヲ含ム)
生理學
藥物學
病理學(細菌學ヲ含ム)

口腔外科學

以上各科目ノ試驗ハ齒科醫師ニ必要ト認ムル範圍及程度ニ止ム。

齒科治術學(齒科矯正學ヲ含ム)

齒科技工學

(四)、齒科醫師ノ數及分布ノ狀態

大正十二年(一九二三年)末ニ於ケル齒科醫師數ハ八千七百七十一人ニシテ人口一萬ニ對スル數ハ一、五〇ニ當リ東京府最モ多數ニシテ沖繩縣最モ少ナク、市部(人口一萬對三・四一)ハ郡部(人口一萬對一・〇三)ニ比シ三倍强ノ多數ヲ示セリ。

丙、產婆

(一)、產婆タル資格

產婆タラントスル者ハ二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ地方長官ノ管理スル產婆名簿ニ登錄セラルルヲ要ス墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者等ニハ登錄ヲ許可セサルコトアルモノトス。

一、產婆試驗ニ合格シタル者

二、內務大臣ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

三、外國ノ學校若クハ講習所ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ產婆免許ヲ得タル者ニシテ內務大臣ノ適當ト認メタル者

(二)、內務大臣指定ノ學校、講習所及產婆試驗

指定ヲ受ク可キ學校又ハ講習所ハ(一)適當ナル建物、器具器械及姙婦ヲ入院セシム可キ產室ノ設備ヲ具スルコト (二)入學資格ハ高等小學卒業又ハ高等女學校二年以上ノ課程ヲ修業ノコト (三)修業年限ハ學說實習ヲ通シテ二ケ年以上ナルコト (四)其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ成績佳良ノコト等ヲ必要トシ現在指定セラレ居ルモノ約四十ヲ算ス。

產婆試驗ハ地方長官ノ告示スル期日及場所ニ於テ擧行セラレ試驗ノ科目左ノ如シ。

學說

第一、正規姙娠分娩及其ノ取扱法

第二、正規產褥ノ經過及褥婦生兒ノ看護法

第三、異常ノ姙娠分娩及其取扱法

第四、姙娠產婦褥婦生兒ノ疾病消毒ノ方法及產婆心得實地

第五、實地試驗其ノ模型試驗

學說試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

(三)、產婆ノ數及其ノ分布

大正十二年(一九二三年)末ニ於ケル產婆ノ數ハ三萬九千五百十五人ニシテ人口一萬ニ對スル其ノ數六、七六ニ當リ內市部一萬二千六百三十五人即チ人口一萬對一〇、八九郡部二萬六千八百八十人即チ人口一萬對五、七三ヲ算セリ。

丁、看護婦

(一)、看護婦タル資格

看護婦ハ十八年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ地方長官ノ免許ヲ受クルコトヲ要シ精神病者、傳染性疾患アル者又ハ素行不良ト認ムル者ニハ免許ヲ與ヘサルモノトス。

一、看護婦試驗ニ合格シタル者

二、地方長官ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

三、關東長官又ハ朝鮮道知事ノ免許ヲ受ケタル者

(二)、看護婦試驗

看護婦試驗ハ一年以上看護ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコト能ハサルモノニシテ地方長官左ノ科目ニツキ之ヲ施行スルモノトス。

一、人體ノ構造及主要器官ノ機能

二、看護方法

三、衞生及傳染病大意

四、消毒方法

五、繃帶術及治療器械取扱法ノ大意

六、救急ノ處置

戊、按摩術鍼灸術營業者

按摩(マッサージ術ヲ含ム)鍼、灸術營業ヲ爲サントスル者ハ試驗合格證書又ハ地方長官ノ指定シタル學校又ハ講習所ノ卒業證書ヲ添ヘテ地方長官ニ願出テ免許鑑札ヲ受クルヲ要スルモノニシテ精神病者、傳染性疾患アル者又ハ素行不良ト認ムル者ハ免許鑑札ヲ交付セス又禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ交付セサルコトアルモノトス。

按摩術ノ試驗ハ地方長官之ヲ擧行スルモノニシテ試驗ニ甲種及乙種ノ別アリ其ノ試驗科目ハ左ノ如シ。

甲種

一、人體ノ構造及主要器官ノ機能

二、按摩方式及身體各部ノ按摩術

三、消毒法大意

四、按摩術ノ實地

甲種試驗ハ四ヶ年以上按摩術ヲ修業シタル者ニ非ラサレハ受クルコト能ハス。

乙種

按摩術ノ實地ヲ行フノ外甲種試驗ノ各科目ニツキ簡易試驗ヲ行フ。

乙種試驗ハ盲人ニ非ラサレハ受クルコト能ハサルモノニシテ二ヶ年以上ノ修行履歷アルコトヲ要スルモノトス蓋シ按摩術ハ古來我國盲人ノ職業タリ且盲人ニハ極メテ適當ノ職業ナルヲ以テ特ニ盲人ニ此特典ヲ與ヘタルニ外ナラス。

鍼術灸術ハ古來漢方醫術ノ一方法トシテ發達シ現在ノ毫針ノ外種々ナル針アリ切開排膿刺絡等ノ小手術ヲ行ヒタルカ舊幕末以降ハ毫針施行ノミ灸術ト共ニ行ハレタリ鍼術及灸術ハ何レモ身體各部醫學上神經壓點ニ準スヘキ經穴ニ刺鍼シ又ハ點灸（其ノ部位ニ焙ヲ置キ火ヲ點ス）スルモノニシテ醫學上一種ノ誘導療法ニ屬セリ。

鍼術及灸術ノ試驗モ亦地方長官之ヲ舉行スルモノニシテ試驗科目ハ左ノ如シ。

一、人體ノ構造及主要器官ノ機能並ニ筋ト神經脈管ノ關係

二、身體各部ノ刺鍼法又ハ灸點法並經穴及禁穴

三、消毒大意

四、鍼術又ハ灸術ノ實地

四ヶ年以上灸術又ハ鍼術ヲ修業シタルモノニ非ラサレハ試驗ヲ受クルヲ得ス。

大正十二年（一九二三年）末鍼灸按摩術營業者左ノ如シ。

	晴眼者		盲		計
	男	女	男	女	
按摩術營業	七、〇九〇	四、九二一	一四、一五一	八、一七六	三四、三五四
鍼術營業	二、五二〇	五二五	二、〇〇三	四二一	五、四六九
灸術營業	三、一九六	九七三	五二一	一三六	四、八二六
鍼按兼業	一、〇七七	三二五	三、二〇一	六一九	五、二二二
灸按兼業	三三九	九二	二八〇	五四	七六五
鍼灸按兼業	二、九三一	四六二	二、八一九	四九六	六、七三八

病院

内務技師　加藤源三

一、歴史　聖武天皇天平二年(七三一年)初メテ施藥院ノ設アリコレヲ醫院ノ始トス。其ノ後奈良、鎌倉、豊後、京都等ニ療病院、救濟院等ノ設立ヲ見タルカ、享保七年(一七二二年)施藥院ヲ小石川藥園中ニ建立シ之ヲ養生所ト名ツケ町奉行ヲシテ支配セシメタリ。

萬延元年(一八六〇年)ニハ長崎ニ病院ヲ建テ之ヲ養生所ト名ケ(明治元年一八六八年)ニハ下谷ニ大病院ヲ興シ醫學所ヲ之ニ屬スルト共ニ大阪久寶寺町ニモ醫學所及病院ヲ設ケタルカ爾來醫育施設ノ發達ト共ニ各地方ニ之カ設立ヲ見ルニ至レリ。

二、現在ニ於ケル狀況

一、病院取締

大正八年四月市街地建築物法ハ市街地ニ住宅地域、商業地域、工業地域ノ區別ヲナシ、各其ノ區域ニ建築スヘカラサルモノ及其ノ區域ニ非ラサレハ建築スヘカラサルモノヲ定メ、且其ノ第十四條ニ於テ主務大臣ハ學校、集會場、劇場、旅館、工場、倉庫、病院、市場、屠場、火葬場其ノ他命令ヲ以テ指定スル特種建築物ノ位置、構造、設備又ハ敷地ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルヲ得ル旨規定セルモ、病院ニ就テハ未タ其ノ制度ヲ見ルニ至ラス。現在同取締ハ地方廳ノ規定ニヨリ行ハレツヽアリ。

各地方廳ニ於テハ何レモ之ニ關スル縣令ヲ發シ其ノ取締ヲ行ヒツヽアリ、取締規定ノ内容ノ主ナルモノ概ネ左ノ如シ。

A　敷地　敷地ハ社寺、學校、公園、遊覽地ニ對シ適當ノ距離ヲ有スルコト、土地濕潤ナラサルコト、煤烟、塵埃等飛散シ又ハ騒音ヲ發スル工場若クハ料理店等ニ接近セサルコト、呼吸器病ノ病院ニ對シテハ患者ニ必要ナル屋外運動場ヲ設クヘキコト等ヲ定ム。

B　建築物　病棟間又ハ病棟ト他ノ建物トノ距離ニ就キテハ高キ建物ノ高サノ或ハ三分ノ一以上或ハ一倍以上トス。

病室ハ患者一人ニ就キ多クハ平面積一坪半以上、稀ニハ二坪以上トシ其ノ床下ハ地盤ヨリ一尺五寸又ハ二尺以上トスルモノ多ク床上ヨリ天井迄ハ八尺又ハ九尺以上ト定ムルモノ多シ。

階上ニ病室ヲ設クルトキハ各病棟ニ二ケ所又ハ三ケ所以上ノ階段ヲ設ク可キモノトシ、其ノ幅員ハ四尺五寸乃至六尺、傾斜ハ三十五度乃至四十五度以下、踏面ハ八寸以上、蹴下ケ六寸又ハ七寸以下トスルモノ多ク何レモ手摺ヲ附スルモノトス。

廊下ハ其ノ中央ノモノハ幅六尺以上、片側廊下ハ幅三尺乃至五尺以上トスルモノ多シ。

○以上ノ外適當個數ノ消火器、擔架、非常報知ノ設備ヲ必要トシ尙醫師其ノ他職員ノ員數ヲ定ムルモノアリ。

傳染病院、精神病院等特種ノ病院ニ就テハ特ニ別ニ定ムル所アリ。

大正十二年末ニ於ケル公私立病院ノ狀況ヲ見ルニ左ノ如シ。

甲、普通病院

一、院數

市部　七四八―（公立―三三／私立―七一五）

郡部　七五二―（公立―三八／私立―七四）

二、病床數

市部　三三、一八九―（公立―六、一一九／私立―二七、〇七五）

郡部　二三、三一八―（公立―一、五〇九／私立―二一、八〇九）

乙、傳染病院、隔離病舍及娼妓病院

一、傳染病院

病院數　一、四八二

病床數　二五、〇三七

二、隔離病舍

病舍數　八、一三六

病床數　七四、九一〇

三、娼妓病院

病院數　一六二

病床數　五、〇〇一

以上傳染病院、隔離病舍及娼妓病院ハ公立ナリ。

丙、私立ノ病院ヲ診察科別ニ見ルニ左ノ如シ。

科別	市部 病院數	市部 病床數	郡部 病院數	郡部 病床數
一般科	三五一	一六、八三四	五六四	一五、九五〇
內科	七六	一、九五七	四七	一、五二九
精神科	二二	二、七五五	二〇	二、三七六
外科	六二	一、三五七	一一	二五三
小兒科	一七	三六五	四	七〇
眼科	五九	一、三〇七	三〇	八二三

産科、婦人科	七六	一、六四〇	二六	五五三	
皮膚、花柳病、泌尿、生殖科	二五	四一三	一一	二四一	
耳鼻咽喉科	二五	四二〇	一	一〇	
歯科	二	二七			
計	七一五	二七、〇七五	七一四	二一、八〇九	

藥品

内務技師　松尾仁

一、藥品及其ノ取締ニ關スル沿革

本邦古代ニ於テハ藥品ニ關スル事項ノ記載ニ上ルモノナク漸ク上古ノ末期ニ至リ日本書記（西暦七二〇年著）中ニ欽明天皇ノ御宇十三年（西暦五五二年）ニ百濟國（現今ノ朝鮮）ヨリ醫師ト共ニ採藥師ヲ貢ラシメタルコトヲ記セリ、之レ實ニ藥ニ關スル事項ノ史上ニ顯ハレタル初メナリ。

降テ聖武天皇ノ御代（西暦自七二四年至七四九年）ニ至リ光明皇后ノ令旨ニ依リ施藥院ヲ設置シ諸國ヨリ毎年藥草ヲ献セシメ之ヲ全國貧窮ナル病者ニ施與スルノ制度ヲ定メラレ爾後數百年ニ亘リ繼續施行セラレタリ。敍上ノ藥品ハ何レモ草根木皮ノ類、即チ所謂和漢藥ニシテ和蘭醫學ノ輸入セラル、迄千數百年間本邦ニ於ケル疾病治療ノ材料ニ供セラレタルモノナリ。

德川幕府ノ末期ヨリ泰西醫學漸ク內地ニ發達スルニ連レ醫療ニ使用セラル、藥品ハ漸次其ノ種類ヲ換ヘ今日ニ於テハ歐米諸國ニ使用セラル、藥品ト全ク同一ノ種類ニ加フルニ和漢藥ニシテ其ノ性效ノ檢明セラレ現今ノ醫學ニ應用セラル、特種ノモノ例ヘハ寒天、當藥、山茶油、黃連、黃耆根等ヲ醫藥品トシテ使用セラル

藥品ノ種類漸次其ノ數ヲ增シ其ノ應用頻繁トナルニ伴ヒ其ノ品質性效ヲ一定シ純雜眞贋ヲ判定スルノ標準トシテ明治十九年(西暦一八八六年)日本藥局方ヲ發布セラレ爾來數次ノ改正ヲ經テ目下第四改正日本藥局方施行セラル。

藥品ノ取締ニ關シテ明治七年(西暦一八七四年)贋造藥品ノ取締、明治十年(西暦一八七七年)劇毒藥取締ニ關スル規則出テシモ明治二十二年(西暦一八八九年)之ヲ改正シ法律トシテ藥品營業並藥品取扱規則ナルモノ發布セラレ現今ハ此ノ法律ニ改正ヲ加ヘタルモノ及此法律ニ基キ發布セル規則ニ依リ之ヲ取締リ居レリ。

二、藥品營業者

現今ニ於ケル藥品營業者ハ左ノ三種ニ別タル。

(1)藥劑師　調劑、藥品ノ販賣竝製造ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ此資格ヲ得ントスル者ハ帝國大學藥學科若ハ藥學專門學校ヲ卒業シタル者又ハ國定藥劑師試驗ニ合格シタル者ニシテ內務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス。

(2)藥種商　藥品ノ販賣ノミヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ本業務ヲ爲サントスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クルコトヲ必要トス。

(3)製藥者　自ラ製造シタル藥品ニ限リ販賣スルコトヲ得ルモノニシテ本業務ヲ爲サントスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クルコトヲ必要トス。

藥品營業者ノ數ハ左ノ如シ(大正十二年西暦一九二三年末現在)

藥劑師	一〇、八八四人
藥種商	二七、八九七人
製藥者	二、一四三人

三、藥品取扱

(1)調劑　公衆ノ需メニ應シ調劑ヲ爲スコトハ藥劑師ニシテ藥局ヲ開設スル者ニ限ラルレ共醫師及齒科醫師ハ自己ノ診療スル患者ニ限リ藥品ヲ調合シテ販賣又ハ授與スルコトヲ得ル規定アリ而シテ本邦ニ於ケル目下ノ狀勢ハ醫師ノ診療ヲ受クル患者ハ其ノ大部分カ醫師ヨリ藥劑ノ交付ヲ受クルノ狀態ナリ。

(2)藥品販賣　藥品ハ其ノ性質ニ基キ取扱規則ノ上ニ於テ左記三種ニ別タル。

A　毒藥　毒性ヲ有スルモノニシテ法規ニ定メラレ他藥ト區別シ鎖鑰ヲ施シタル場所ニ最モ注意シテ貯フヘキモノ其數二五五種アリ。

B　劇藥　劇性ヲ有スルモノニシテ法規ニ定メラレ他藥ト區別シ注意シテ貯フヘキモノ其數二五五種アリ。

右毒藥及劇藥ハ職業上必要ト認ムル者ニ限リ購買又ハ讓受スルコトヲ許サレ藥劑師又ハ製藥者ノ封緘セル儘販賣授與セラルルヲ原則トシ需用者ノ求メニ應シ小分販賣スルコトヲ得ル者ハ藥劑師ニ限レリ

但シ此場合ニハ藥品ノ容器ニ藥品名、毒藥劇藥ノ區別及販賣授與者ノ住所、氏名ヲ明記スルコトヲ必要トス、而シテ販賣授與ノ際ニハ原則トシテ一定ノ買受證ヲ徵收シ販賣又ハ授與シタル者ニ於テ十年間之ヲ保存スルノ義務ヲ有ス。

C 其ノ他ノ藥品　法規上毒藥又ハ劇藥ニ屬セサル藥品所謂普通藥ハ藥劑師又ハ藥種商ニ限リ何レモ自由ニ小分販賣スルコトヲ得。

又別ニ以上ノ藥品ヲ通シテ內務大臣ノ指定シタル一二〇種ノ藥品ハ指定藥品ト稱シ劇藥ハ勿論毒藥劇藥ニ屬セサルモノト雖モ藥劑師又ハ藥劑師ヲ使用スル藥種商ニ非ラサレハ之ヲ販賣授與スルコトヲ得サル規定アリ。

本邦ニ於ケル藥品取引ノ中心ハ大阪及東京ニシテ全國ニ於テ製造セラレタル藥品及輸入セラレタル藥品ノ殆ト全部ハ兩地市場ニ一度集注セラレタル後全國ニ配給セラル而シテ本邦ニ輸入セラルル藥品ノ重ナル輸出國ハ獨逸、瑞西、米國及英國ナリトス。

(3)藥品製造　本邦ニ於ケル製藥事業ハ最近十年間ニ於テ特ニ著シキ發達ヲ見タルモノナルカ其ノ中心地ハ東京及大阪ニシテ年額一〇、〇〇〇圓以上ノ生產アル品種約百種以上アリ。

四、藥品ニ關スル制度及施設

(1)藥品取締及品質ノ保持　疾病ノ治療上一般ニ最モ多ク使用セラルル藥品ハ日本藥局方ニ收載シテ其ノ性狀、品質試驗法等ヲ規定シ內務省令ヲ以テ之ヲ公布セリ此等藥品ハ藥局方ノ所定ニ適合スルニ非ラサレハ醫藥品トシテ販賣又ハ授與スルコトヲ許サレス現行第四改正日本藥局方ニ收載セル藥品ハ其ノ數六八四種アリ。

日本藥局方ニ收載セラレサル藥品ニシテ外國藥局方ニ收載セラレタル藥品ハ其ノ據ル所ノ藥局方名ニ明示シ且ツ品質、性狀其ノ所定ニ適合スルモノニ限リ販賣授與ヲ許サレ又何レノ藥局方ニモ規定セラレサル藥品及製劑ニ付テハ製造者又ハ輸入者ヨリ地方長官ニ屆出タル上始メテ發賣スルコトヲ得此場合長官ニ於テ衞生上危害ヲ生スル虞アリト認ムルトキハ其ノ發賣ヲ禁止スルコトヲ得。

(2)取締ノ機關　各地方廳(一道三府四十三縣)ニ藥品巡視官ヲ置キ巡視官ハ絕エス管內ノ藥品營業者竝醫師ノ藥室ヲ巡視シ規則ニ違反スルモノヲ檢舉シ若シ藥品ニシテ疑ハシムヘキモノアルトキハ各地方廳所屬ノ實驗室ニ於テ試驗ニ附シ不良品ノ絕滅ニ努ム大正十一年(西曆一九二二年)中ニ於ケル藥品巡視成績ハ別表ノ如シ。

(3)藥品ニ關スル主ナル取締ノ法規

藥品營業竝藥品取扱規則

藥品營業竝藥品取扱規則第二十六條、第二十七條及第三十七條ノ三ニ依ル命令

毒藥、劇藥品目

藥品巡視規則

何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑取締ニ關スル件

藥品營業並藥品取扱規則第三十八條ノ三ニ依ル指定藥品

阿片法

阿片法施行規則

モルヒネ、コカイン及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル件

痘苗、血清其ノ他細菌學的豫防治療品製造取締規則

藥劑師試驗規則

(4)試驗及調査ニ關スル國立機關　東京及大阪ニ內務省管轄ニ屬スル衞生試驗所アリ其ノ一部ノ事業トシテ一般營業者ノ依賴ニ應シ藥品ノ試驗ヲ爲シ且小分封緘ヲ行フ。

東京衞生試驗所內ニハ調査機關アリテ藥品製造ノ方法ニ關シ研究調査ヲ行ヒ其ノ成果ヲ得タルモノニ付テハ之ヲ公表スルト同時ニ希望者ニ對シテ實地指導ヲ爲ス。

藥品巡視施行成績（大正十二年）

	施行スベキ箇所數	施行シタル箇所數	施行箇所百中施行シタル箇所	不良藥品發見箇所	不良藥品發見箇所百中	規則違犯處罰數	施行箇所百中處罰數
藥劑師	七、二三九	三、〇一三	四一・六二	八三七	一、七二八	二七・七八	五七・三五	四一	一・三六
藥種商	二五、四六二	九、四〇五	三六・九四	一、三八四	三、七〇六	一四・七二	三九・四〇	八三	〇・八八
製藥者	二、二三八	三九〇	一七・四三	五	七五五	一・二八	一九三・五九	一	〇・二六
病院	一、七〇〇	六九六	四〇・九四	二四九	六〇九	三五・七八	八七・五〇	六	〇・八六
醫師	三七、一六五	一四、二一三	三八・二四	六、三六九	一四、六九三	四四・八一	一〇三・三八	一〇二	〇・七二
齒科醫師	七、七八六	二、四五二	三一・四九	五一七	八〇〇	二一・〇八	三二・六三	二八	一・一四
獸醫	四、三七一	六二四	一四・二八	二一六	五二八	三四・六二	八四・六二	九	〇・八八
合計	八五、九六一	三〇、九七三	三五・八二	九、五七七	二二、八一九	三一・一〇	七四・一〇	二七〇	〇・八八

血清ワクシン

防疫官　勝俣稔

一、由來本邦ニ於ケル血清「ワクシン」類ニシテ最モ古クヨリ使用セラレシモノハ痘苗ナリ。種人痘法ハ既ニ數百年前安房國海邊ノ一小村落ニ於テ行ハレタリト云フ。然レトモ記錄ニ明カナルハ享延元年(一七四五年)支那揚州ノ人李人山長崎ニ於テ種人痘法ヲ行ヒタルヲ以テ嚆矢トナス。牛痘苗ハ天保十年(一八三九年)蘭人リンコールニヨリテ初メテ輸入セラレシモ此ノ苗ハ永續スルコト能ハサリキ。次テ嘉永二年(一八四九年)鍋島閑叟公侍醫林宗建ニ命シテ蘭人モーニツケヲシテ牛痘苗ヲ輸入セシメタリ。之ヲ兒體ノ兒體ニ傳ヘテ苗ヲ保存シ、種痘法漸ク普及スルニ至レリ。爾來種痘ノ効果ハ世ノ認ムル所トナリ、安政四年(一八五七年)ニハ民間ニ於テモ江戸種痘館ノ設立ヲ見、明治七年(一八七四年)政府ハ東京ニ牛痘種繼所ヲ設置シ、痘苗ヲ各府縣ニ分與シテ種痘奬勵ニ勉メタリ。明治二十一年(一八八八年)牛痘種繼所ハ廢止セラレ大日本私立衛生會之ヲ引繼キテ痘苗ノ供給ニ當レリ。次テ明治二十九年(一八九六年)政府ハ東京及大阪ニ痘苗製造所ヲ設立セルヲ以テ大日本私立衛生會ノ製苗ハ之ヲ廢止シ、明治三十五年(一九〇二年)ニ至リテ大阪痘苗製造所ハ東京痘苗製造所ニ合併セラレタリ。其後明治三十八年(一九〇五年)東京痘苗製造所ハ國立傳染病研究所ニ合併セラレテ今日ニ及ヒヌ。民間ニ於テモ前記ノ種痘館ノ外明治(十五年(一八九二年)帝國痘苗所ノ設ケラレタルヲ首メトシ痘菌製造所ヲ設置スルモノ少カラス。

本邦ニ於ケル牛痘苗ノ沿革ヲ見ルニ嘉永年間ヨリハ人化痘苗ノミ使用セラレシカ明治六年長與專齋氏歐洲ヨリ歸朝後直ニ人化痘苗ノ幼犢ニ種ヘテ痘苗ヲ製造セリ。此レ本邦ニ於ケル最初ノ再歸痘苗ナリ。然レトモ當時ハ之ヲ更ニ小兒ニ接種シテ得タル人化痘苗ヲ一般ニ使用シ、明治二十四年(一八九一年)初メテ再歸痘苗ノミ使用セラルルニ至レリ。而シテ明治三十三年(一九〇〇年)ヨリ尚今日ニ至ル迄使用セラレツツアル痘苗ハ明治二十九年(一八九六年)北里、梅野兩氏ノ研究ノ結果成功セル犢體繼續法ニヨル純牛痘苗ヲ主トスルモ最近國立傳染病研究所ニテハ人天然痘毒ノ牛痘化セルモノヲ製造販賣シツ、アリ。

其ノ他ノ血清「ワクチン」類ハ北里博士ノ歸朝ニヨリテ初メテ製造セラレタルモノニシテ明治二十五年(一八九〇年)、北里博士經營ノ私立傳染病研究所ノ東京ニ設置セラル、ニ及ヒテ「ヂフテリア」血清、破傷風血清、「ツベルクリン」等ハ初メテ世ニ現レタルモノナリ。

「ヂフテリア」血清療法ノ効果確實ナルコトヲ認メラレ、ヤ政府ハ明治二十九年(一八九四年)東京ニ血清藥院ヲ設立シテ「ヂフテリア」血清ヲ製造供給セリ。次ニ明治三十二年(一八九八年)東京ニ國立傳染病研究所ノ設置トナリ、明治三十八年(一九〇五年)血清藥院ト東京痘苗製造所ト共ニ、之ニ合併統一セラレタリ。國立傳染病研究所ニアリテハ各種ノ有効ナル血清「ワクチン」類ヲ製造販賣スルニ至レリ。尚最近數年來「コ

レラ」腸「チフス」「パラチフスA.B」赤痢等ノ「ワクシン」ノ如キハ各府縣衛生課附屬細菌檢査所ニ於テモ製造セラレツヽアリ。

二、取締

血清「ワクシン」類ノ製造販賣ハ官民倶ニ隆盛ナルニ連レ、製品及其ノ製造方法ニ關シテモ充分ナル取締ノ必要アルヲ認メ政府ハ明治三十六年(一九〇三年)六月內務省令第五號ニ依リテ痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則ヲ發布セリ。尙大正三年十二月一部ノ改正アリテ現行法ニ到ル、該規則ニ依レハ痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品ヲ製造又ハ輸入移入シテ販賣セントスル者ハ其ノ製造所ノ名稱、位置、製造品ノ種類、製造方法、有効期間製造所ノ建物等ノ構造並ニ所長及主任技術者ノ氏名履歷等ヲ具シテ地方長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス。其ノ認可ハ衛生上重大ナル影響アルヘキヲ以テ、明治三十六年六月內務省令第四二九號ニヨリ、地方長官ハ內務大臣ニ豫メ稟伺シタル上許否ヲ決ス。此ノ場合內務大臣ハ技術方面ニ關シテハ傳染病研究所ノ意見ヲ斟酌シテ之ヲ審議シ地方長官ニ對シテ指示ス。尙地方長官ハ常ニ製造所ノ監督ノ任ニ當リ若シ本則ニ違反シタル場合ニ於テハ科料ニ處シ若クハ認可ヲ取消スノ權能ヲ有ス。

別ニ「ヂフテリア」血清及破傷風血清ニ關シテハ大正四年(一九一五年)十月內務省令第十二號ノ規定ニ依リ豫メ檢定ニ合格セルモノニ非サレハ販賣スルコトヲ許可セス右ノ檢定ハ其ノ製品ノ一定量ヲ國立傳染病研究所ニ送付シ同所ニ於テ政府任命ノ血清委員之ヲ檢定ス「ヂフテリア」血清ハ1cc內ニ「エーリッヒ」「氏法ニヨル五百位以上乾燥血清ハ一瓦內五千單位以上ノ免疫體ヲ含有セサルヘカラス、破傷風血清ハ「ベーリング」氏法ニヨリ1cc內5單位以上、乾燥血清ハ一瓦內ニ五十單位以上ノ免疫體ヲ含有セサルヘカラヌ。而シテ兩血清共ニ含有スル蛋白質量ハ「キールダール」氏法ニヨリ10%以下ニシテ其ノ一五cc ヲ二五〇瓦ノ「モルモット」ノ皮下ニ注射シテ死ニ致ラシメサルモノナルヲ要スト規定セリ。

一般ニ販賣セラルル血清ワクチン類ニ對シテ明治二十二年三月法律第十號藥品營業竝藥品取扱規則ニ依リ他ノ一般ノ藥品ト共ニ取締ヲ受ケ、藥品巡視規則等ニ依リ不良又ハ變敗セル場合等ヲ取締リ居レリ、血清「ワクシン」類ノ有効期間ニ關シテハ政府ハ血清ハ製造後一ケ年「ワクシン」ハ同シク三ケ月トシテ之ヲ許可シ「ヂフテリア」血清ト破傷風血清トハ日本藥局方ニヨリテ檢定月日ヨリ一ケ年以上ヲ經過セルモノハ其ノ使用ヲ禁止セラル。又血清類ニシテ製造後一ケ年以上經過セルモノハ之ヲ事ノ製造元ニ送付スルトキハ無償ニテ新シキ製品ト交換ス。

三、血清「ワクシン」類ノ製造及其ノ種類

現在本邦ニ於テ國立傳染病研究所及各府縣廳衛生課附屬細菌檢査所ヲ除クノ外私立ノ研究所ニシテ血清「ワクシン」類ヲ製造販賣スルモノハ十八箇所アリ(別表)其ノ製品ノ種類ハ左ノ如シ。

血清類

「ヂフテリア」血清及同乾燥血清、破傷風血清及同乾燥血清、腸「チフス」菌血清、志賀菌血清、赤痢多價

血清、脾脱疽菌血清、インフルエンザ菌血清、
肺炎双球菌血清、連鎖狀球菌血清、流行性腦脊髓膜炎菌血清、
ペスト菌血清、コレラ菌血清、黄疸出血性スピロヘーター血清、七日熱スピロヘーター混合血清、腺疫
血清、飯匙蛇毒血清、精製「ヂフテリア」抗毒素、

「ワクシン」類

痘苗、「腸チフス」菌ワクチン、パラB菌ワクシン、パラA菌ワクシン、「パラチフス」菌ワクシン、「腸チフス」「パラチフス」混合ワクシン、赤痢菌ワクシン、大腸菌ワクシン、結核菌ワクシン、インフルエンザワクシン、百日咳菌ワクシン、丹毒連鎖狀球ワクシン(丹毒治療液)、連鎖狀球菌ワクシン、肺炎双球菌ワクシン、流行性腦脊髓膜炎菌ワクシン、淋菌ワクシン、葡萄狀球菌ワクシン、
コレラ菌ワクシン、ペスト菌ワクシン、出血性黄疸スピロヘーターワクシン、七日熱スピロヘーターワクシン、腺疫ワクシン、
舊ツベリクリンワクシン、新ツベリクリンワクシン、ツベリクロトキノヂンワクシン、狂犬病ワクシン、
軟性下疳菌ワクシン、
其ノ他狂犬病豫防劑、梅野狂犬豫防液、腸チフス診斷液、パラA診斷液、パラB診斷液、微毒診斷液、
細菌性「ワクシン」ニハ感作「ワクシン」(Causi loled Yace.ui)ヲ使用スルモノ少カラス。

日本全國「ヂフテリア」及破傷風血清製造高表

品目	年度	十年度	十一年度	十二年度
液體ヂフテリア血清		一五三一、六〇〇 c.c.	一三三三、六〇〇 c.c.	一二八二、五〇〇 c.c. (一c.c.内五〇〇單位)
乾燥ヂフテリア血清		二七〇瓦	二四〇瓦	二二〇瓦(一瓦内五、〇〇〇〃)
ヂフテリア杭毒素	乙種	四三〇 c.c.	四三〇 c.c.	三八五 c.c. (1c.c.内、一〇〇〇〃)
同	丙種	一、八五〇 c.c.	一、五〇〇 c.c.	一、三〇〇 c.c. (1c.c.内八〇〇〃)
液體破傷風血清		二五二、三〇〇 c.c.	二八七、二〇〇 c.c.	三三二、五〇〇 c.c.
乾燥破傷風血清		一、五〇〇瓦	五〇〇瓦	一、〇五〇瓦

賣藥

內務技師　松尾仁

本邦ニ於テハ賣藥ト稱シ効能用法用量等ヲ示シ公衆ヲシテ醫師ノ指揮ヲ待タスシテ疾病治療ニ使用セシムルヲ主タル目的トシテ販賣スル藥品アリテ法規上特殊ノ取扱ヲ受ク

賣藥取締ノ沿革。　賣藥取締ノ沿革ハ明治三年十二月(西暦一八七〇年)太政官布達アリタルヲ最初トシ其ノ後數度ノ變遷ヲ經テ現行規則ノ發布ト勵行ヲ見ルニ至レリ現行規則ハ

賣藥法　大正三年(一九一四年)

賣藥法施行規則　大正三年(一九一四年)

輸出又ハ移出スル賣藥ノ取締ニ關スル件　大正三年(一九一四年)

取締ノ主旨ハ醫學ノ素養ナキ素人カ隨意ニ藥品ヲ用フルニヨリテ生スル危害ヲ防止セムトスルニアリ之ハ勿論一般藥品ニ對シテモ必要ナルコトナレ共特ニ賣藥ニアリテハ効能用法用量ヲ示シ公衆ニ購賣セシムルモノナルカ故ニ往々誇大ナル廣告又ハ過大ナル効能ヲ附記セル爲メ公衆ヲシテ藥効ヲ妄信セシムル結果治療ノ時季ヲ失セシムル虞アリ故ニ特ニ取締ヲ嚴重ニスル必要アリ之レ現行取締アル所以ナリ

只其ノ販賣ヲ禁止セサルハ貧困ナルモノ繁忙ナル者若クハ交通不便ノ地ニ在ル者ハ輕微ナル疾病迄悉ク醫師ノ治療ヲ受ケサル可カラサルハ極メテ不便ナルノミナラス疾病ノ推測適中スル場合モ少ナカラサルカ故ニ衞生上ノ危害ナキ範圍ニ於テ之レヲ使用セシムルハ國家ノ現狀ニ於テ必要ナルモノトシテ現今ニ及ヘリ

現行制度ノ主ナル內容。　賣藥ヲ製造シテ發賣シ得ル者ハ原則トシテハ藥劑師、藥劑師ヲ使用スル者又ハ醫師ニ限ラレ家畜用賣藥ニ限リ獸醫モ亦調製販賣スルコトヲ得但シ現行賣藥法發布前ヨリ舊法ニヨリ免許ヲ得テ賣藥ヲ製造シテ發賣シタル者ハ從來免許ノ賣藥ハ勿論新規ノ賣藥ヲモ調製販賣シ得ヘク又他ノ賣藥免許ヲ讓受若クハ相續スルコトヲ得又賣藥法發布前ニ免許ヲ受ケタル賣藥ニシテ毒藥劇藥及藥品營業取締規則ニヨル指定藥品ヲ含有セサルモノハ何人ニテモ讓受又ハ相續シテ調製販賣スルコトヲ得

賣藥ヲ輸入又ハ移入シテ發賣セムトスル者ノ身分ニ關シテハ調製シテ發賣スルモノト同樣ノ制限ヲ受ク

賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方名原料品名及其ノ分量調製ノ方法用法用量竝效能ヲ記載シ主タル營業所々在地ノ地方長官ノ免許ヲ受クルコトヲ必要トス此場合日本藥局方ニ記載セサル藥品ヲ使用セムトスルトキハ見本品ヲ提出スルヲ要ス

地方長官ハ衞生上危害ナシト認ムル場合ニ限リ之レニ免許ヲ與フルモノニシテ今日ニ於ケル大體ノ標準ハ毒藥又ハ劇藥ハ原則トシテハ賣藥中ニ配合スルコトヲ許サヽルモ其ノ使用法用量等ニ於テ危害ヲ生スル虞ナシト認メラルヽ場合ニ限リ賣藥中ニ配伍スルコトヲ許可ス而シテ事實上現在ニ於テハ毒藥ニシテ配伍ヲ許可

セラレタルモノナシ

其ノ他性狀効能不明ノ物質又ハ薫烟劑吸入劑等用法ノ特殊ニシテ用法ヲ誤ルコトニヨリ危害ヲ招ク虞アルモノハ賣藥トシテ發賣セシメス又免許ヲ與ヘタル賣藥ト雖モ衞生上危害ノ虞アリト認メラ、場合ヲ生シタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得ル規定アリ

地方長官ハ其ノ所屬ノ賣藥檢査官ヲシテ免許ノ可否ニ關シ調査セシムルノミナラス調製所販賣店等ニ臨檢セシメ場合ニ依リテハ現品ヲ收去シテ所屬ノ試驗室ニ於テ試驗セシムル等ノコトヲ行ヒテ衞生上ノ危害ヲ未然ニ防止スルコトニ努メツ、アリ。又賣藥ノ廣告ハ其ノ性質上特ニ嚴重ニ取締必要アルヲ以テ其効能ニ關シテハ文書言語其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス免許ヲ得タル事項ヲ說明スルノ外誇張シテ公示スルヲ禁シ且ツ賣藥ノ廣告賣藥ノ容器若クハ被包又ハ賣藥ニ添附シ若クハ添附セスシテ頒布スル文書ニハ猥褻ニ渉ル記事又ハ圖畫、避姙又ハ墮胎ヲ暗示スル記事、虛僞誇大ノ記事醫師其ノ他ノ者カ効能ヲ保證シタルモノト世人ヲシテ誤解セシムル虞アル記事醫治ノ無効ヲ暗示シ或ハ暗ニ醫師ヲ誹謗スルカ如キ記事ノ記載ヲ禁止セリ。又取締ノ必要上賣藥ヲ請賣セムトスル者ハ警察署ニ屆出シメツ、アリ

其ノ他取締ニハ直接關係ナキモ賣藥稅法ニヨリ賣藥ニハ其ノ定價ノ一〇%ニ相當スル印紙ヲ貼付スルヲ必要トス

賣藥ノ現況。　賣藥ノ發賣者及發賣高ハ別表ノ如ク年々增加シ大正十二年(一九二二年)ニハ發賣者三七、三三三人方數一一三、二七九販賣價格九六、九一二、一九〇圓ニ上ル其ノ主要ナル製造地ハ東京大阪富山奈良滋賀地方ヲ最タルモノトス販賣ノ方法ニ二種アリ一ツハ普通ノ方法ナレ共他ノ一ツハ本邦ノ一般商品ノ販賣組織ニ見ツル特殊ノ方法ニシテ製造發賣者ノ雇人ハ各家庭ヲ訪問シ需要者ニ於テ必要ナル賣藥ノ種類ヲ選ヒ之レヲ無償ニテ各家庭ニ留置ス需要者ハ其ノ中ヨリ必要ニ應シ使用シ多クハ半年毎ニ再ヒ營業者カ巡回シ來レルトキ使用シタル分量ニ對シテノミ價格ヲ支拂フ

此種ノ賣藥ヲ家庭ニ常備シ置ク風ハ主トシテ交通不便ナル地方殆ント全國ニ普及セリ

斯ル營業者ノ最モ多キ地方ハ富山、奈良、滋賀地方ニシテ殊ニ富山ノ賣藥業者ノ足跡ハ全國殆ント到ラサル所ナシ

(表)

年次	製造又ハ輸入業方數	公稱發賣高
大正三年	四〇、九五〇	二三、五三五、八二〇
大正四年	三七、五六五	二三、六七〇、五九〇
大正五年	三五、九三二	二七、三七八、六〇〇
大正六年	三五、二四三	三三、六一二、九〇〇

大正七年	三五、三八五	九五、〇二一	四四、八九八、六〇〇
大正八年	三五、二〇一	九九、〇三二	六五、九一九、四三〇
大正九年	三四、五五二	一〇〇、〇七八	七九、六四一、五一〇
大正十年	三四、四九一	一〇二、一九〇	八七、九五五、八八〇
大正十一年	三四、四六〇	一〇七、五三五	七〇、八一九、二三〇
大正十二年	三七、三三三	一一三、二七九	九六、九一二、一九〇

大正十一年ハ十二年ノ震災ノ爲メ神奈川ニ於ケル方數不明、東京、神奈川ニ於ケル發賣高不明ノ爲メ之等ヲ表中ニ含マス

阿片及麻藥類

內務技師　國峯專吉

本邦ニ於テハ古クハ阿片ヲ產出セス且支那トノ交通旺ナリシ時代ニ於テモ之レヲ輸入スルコトナク爲メニ之カ吸喰(Smoking)ノ風習絕無ニシテ取締ノ要ナカリシカ德川幕府ノ末期ニ至リ歐米諸國トノ開港條約締結セラレ諸外國トノ交通漸ク盛ナラントスルヤ夙ニ阿片ノ害毒ノ恐ルヘキヲ知レル幕府ハ之レカ輸入ヲ恐レテ國禁トシ嚴重ナル取締方法ヲ講シタルヲ以テ我國民ハ幸ニ吸喰ニヨル害毒ヨリ免カル、事ヲ得タリ然ルニ洋方醫學ノ研鑽盛大トナルニ從ヒ藥用トシテ缺ク可カラサルモノアルニ鑑ミ之レヲ政府ノ專賣トシ其ノ取締ヲ嚴ニスルト共ニ藥用阿片(Opium Jormedical Purpore)需給ノ計ヲ樹立セリ

阿片ノ取締及需給ニ關スル法規ニ就テハ時運ノ趨勢ニ從ヒ數次ノ改正ヲナシ今日ニ至レルカ其ノ取締ハ益々嚴ヲ加ヘ遺漏ナキヲ期セリ

近來麻藥類濫用ニ關シ各國之レカ防止ニ力メツ、アルモ本邦ニ於テハ阿片ト同シク之レカ濫用ノ弊ナク從來一般劇藥中ニ包含シ取締リ來リシモ阿片條約實施ニ伴ヒ現今ニ於テハ其ノ輸移出入ニ就キ許可制度ヲ敷キ隣邦支那ニ對スル輸出ニハ特ニ留意スル所アリ又內地ニ於ケル麻藥類ノ製造販賣等ニ就テモ最モ嚴重ナル取

締規定ヲ設ケ之ヲ勵行シ居レリ

一、阿片取締制度ノ沿革

阿片ノ輸入ハ前述ノ如ク德川幕府ノ末期ニ於テ既ニ之レカ禁制ヲ設ケタリ即ハチ安政五年(一八五八年)七月時ノ將軍德川家定ハ英國ト通商條約ヲ結ヒ阿片ノ輸入ヲ禁シ商船中ニ阿片三斤以上ヲ保持スルトキハ其ノ全量ヲ沒收シ又ハ阿片ノ密賣買ヲ爲シ或ハ其ノ事ヲ企ツルモノアラハ阿片一斤毎ニ十五弗ノ科料ニ處スヘキヲ約セリ次テ明治ニ至リ益々其ノ禁ヲ嚴ニシ明治元年(一八六八年)四月太政官ハ府藩縣ニ命シテ阿片煙草ノ有害ナルコトヲ諭シ其ノ吸喰ハ勿論賣買授受ト雖モ之ヲ嚴禁シ若シ此ノ禁ヲ犯ス者ハ嚴科ニ處スヘキコトヲ掲示セシメタリ

明治三年(一八七〇年)八月生阿片(raw Opium)取扱規則ヲ發布シ藥用トシテ賣買スル阿片ヲ藥舗及醫師ヨリ管轄廳ニ屆出シメ尙ホ在留清國人ニ諭告シ內地ニ於テ阿片ヲ吸喰及授受ヲ禁シ犯ス者ハ嚴罰ニ處セラルヘキハ勿論習癖ノ止キ難キモノハ斷然內地ヨリ退去ヲ命セルコトヽシタリ

次テ十三年(一八八〇年)刑法ノ發布アリ十五年(一八八二年)一月ヨリ實施セシカ其ノ第二編第五章第一節ニ於テ阿片烟(Opium)ニ關スル罪ヲ定メタリ即チ阿片烟ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣シタル者、阿片烟ヲ吸喰スル器具ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣シタル者、阿片烟ヲ吸喰スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者、他人ヲ誘引シテ阿片ヲ吸喰セシメタル者、阿片烟ヲ吸喰シタル者、阿片烟及之レカ吸喰ノ器具ヲ所持シ又ハ授與シタル者等ノ罪ヲ定メ他ノ犯罪ニ比シ重科ニ處スルノ制ヲ設ケタリ

(本刑法ハ明治四十年(一九〇七年)改正セラレ其ノ第二編第十四章ニ於テ本罪ヲ規定シタリ

二、阿片專賣制度

本邦內地ニ於テハ阿片ノ吸喰ハ嚴禁セルカ故ニ政府ノ專賣ニ屬スルモノハ醫藥用阿片及製藥用阿片ノミナリ前者ノ專賣制度ノ濫觴ハ明治十一年(一八七八年)發布ノ藥用阿片賣買並ニ製造規則ニシテ後者ハ大正六年(一九一七年)ヲ以テ其ノ取扱ヲ開始セリ

イ、藥用阿片拂下制度

阿片ハ吸喰ニヨル害毒恐ルヘキモノアルカ故ニ之レカ輸入及賣買等ハ絕對ニ禁止シタリト雖モ一面藥用トシテ必要缺クヘカラサルモノナルヲ以テ之レカ給與ノ方法ヲ設クルノ必要アルハ帝國政府ノ夙ニ認メタル所ナリ

然ルニ內地生產數量ハ一般ノ需要ヲ充タスニ足ラサルヲ以テ外國產阿片購入ノ方法ヲ設ケテ其ノ不足ヲ補ヒ內外品ノ別ナク悉皆之レヲ政府ニ收メテ藥用トシテノ品位ヲ定メ然ル後內務省所管ノ各司藥場又司藥場ヲ置カサル地方ハ其ノ管轄廳ヲ經テ新タニ地方毎ニ設ケラレタル阿片賣捌特許藥舗ニ分配シ需要者ヲシテ右藥

舗ニ就キ醫師ノ處方ニヨリ講求セシメントスルノ議ヲ立テタリ之レ一方需要者ニ藥用阿片ヲ得ルノ便ヲ與ヘ一方個人輸入ノ禁ヲ嚴ニスルニ在リキ此趣旨ニ依リ明治十一年(一八七八年)八月藥用阿片賣買竝ニ製造規則ヲ布告シ十二年(一八七九年)五月之ヲ施行シタリ

而シテ又居留外國人ニ對シテハ特ニ阿片拂下規則ヲ設ケ十一年(一八七八年)十月ヲ以テ東京、大阪、横濱、長崎ノ各司藥場、兵庫、新潟ノ二縣及開拓使函館支廳ヲシテ特別ノ取扱ヲナサシム

茲ニ於テ本邦ニ於ケル阿片專賣制度ハ確立セラレタリ

(ロ)、阿片法ノ發布

明治十一年(一八七八年)制定ノ藥用阿片賣買竝ニ製造規則ハ其制定ノ日既ニ遠ク世ノ進運ニ伴ハサルノ恨アルヲ以テ明治三十年(一八九七年)之レヲ廢止シ代ルニ現行阿片法ヲ以テシタリ本法ニ於テモ亦藥用阿片ハ政府ノ專賣トシ個人輸入ト販賣トヲ禁セリ又內國產ノ阿片ニ就テハ罌粟ノ栽培阿片ノ製造ハ地方長官ヲシテ嚴密ニ之レヲ管理セシメ生產品ハ悉皆之レヲ政府ニ納付セシメ其「モルヒネ」含有量百分中一定量以上ニ達スルモノハ所定ノ金額ヲ賠償シ一定量以下ノモノハ無償ニテ燒却スルコトヽシ內外品共ニ內務省衞生試驗所(司藥場ノ改稱)ニ於テ粉末トナシ其ノ含有スル「モルヒネ」ノ量ヲ定メテ日本藥局方ニ適合セシメタル後各地方廳ニ配送シ地方廳ハ醫藥用阿片販賣人ヲ定メテ之レヲ拂下クルモノトス爾來此法ハ今日ニ至ル迄良ク行ハレテ藥用阿片ノ供給上何等ノ支障ヲ認メス

(ハ)、大正六年(一九一七年)阿片法ノ一部改正

製藥用阿片拂下規則ノ發布

阿片法ハ大正六年(一九一七年)七月一部ノ改正ヲ行ヒ製藥用阿片拂下ニ關スル內務省令ヲ公布シ內務大臣ノ特ニ指定シタル會社ニ對シ阿片ノ拂下ヲナシ政府直接監督ノ下ニ醫藥ニ供スル阿片鹽基及ヒ其ノ誘導體ノ製造ヲ爲サシムルコトヽセリ

(ニ)、大正八年(一九一九年)ノ阿片法改正

醫藥用阿片ノ需給竝ニ其ノ取締ニ關シテハ從來相當ノ施設ヲナシ最善ノ注意ヲ怠ラサリシモ猶ホ足ラサルモノアルヲ以テ其ノ需給ヲ圓滑ナラシムルト共ニ其ノ取締ヲ勵行センカ爲大正八年(一九一九年)四月法律第四十三號ヲ以テ阿片法一部ノ改正ヲ行ヒ爾後營業者間相互ノ賣買授受ヲ禁止シ又卸賣人ナルモノヲ廢シテ販賣人トシ地方長官ハ各郡市區每ニ一人以上ノ阿片販賣人ヲ指定シ行政官廳ノ證明ヲ有スル管內ノ需要者ニ限リ政府封緘ノ儘定價ヲ以テ賣渡サシメ特ニ必要アル場合ニ於テハ地方長官ヲシテ直接需要者ニ賣下クルノ途ヲ開カシムル等不正ノ徒ヲシテ乘スルノ隙ナカラシメ又從來本法違反者ニ對シ體刑ヲ課スルノ途ナク犯人ノ身柄拘束其ノ他科刑上不便尠カラサリシヲ以テ新タニ體刑ヲ加ヘ且罰金刑ヲモ加重シ又國費支辨ノ藥品巡視官ヲ增員シ以テ犯罪防遏ノ效果ヲ完カラシメン事ヲ期セリ

(ホ) 阿片ノ輸出入